



## 高尾山古墳と道路の両立、課題が多く難航しています

古墳と道路の両立について11月議会で質し、様々な課題が明らかになりました。有識者による協議会で“道路を古墳西側に迂回する案”が推奨された以降の状況について、ご紹介します。

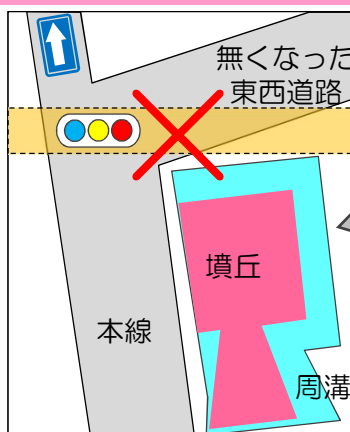
市が県公安委員会と地元協議会推奨の“西側迂回案”を提示しましたが、認められていない状況です。

## 県公安委員会の指摘

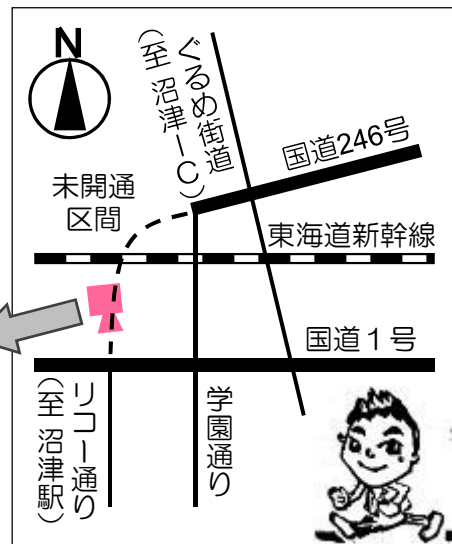
この交差点形状では信号不要。

## 地元の指摘

東西の地域内交通道路が無くなり、往来不可能となっている。



西側迂回案のイメージ



高尾山古墳周辺の地図

## 指摘の何が問題？

- 信号を無くした場合は、道路構造令を満たすためにより大きく古墳を避ける必要があります。その際、これまでの想定以上の用地取得が必要になります。
- 地元理解のない道路では県公安委員会に認められません。これまでの移転協力の大前提である東西道路の復活が理解の第一歩ですが、道路設計は相当困難です。



古墳の現地保存と道路の両立を目指すのであれば、地元の理解を得られる道路設計と、丁寧な説明による理解の醸成が必須です。現在、本線と周辺道路を再設計するための測量を実施中ですが、両立への道のりはそう簡単ではないことは認識する必要があります。



### 「中沢田歩道橋」の様子

老朽化が進んでいます

横断歩道橋と植栽の安全性・利便性・景観性・維持管理性について、住民や沿道店舗と行政が連携して課題解決していくための協議会に参画しています。対象区間は西沢田く共栄町交差点までの1.7kmです。

高度経済成長期に整備された歩道空間の老朽化は全国的な課題です。今回設置された協議会は、全国に先駆けたモデルケースとなります。3月までに計3回実施する予定です。

子供・学生・子育て世代・高齢者等、様々な視点から考えていく必要があります。声をお寄せ下さい。

国道1号線の歩道空間  
改善協議会に参画

# 市の諸課題に対する新市長の考え方が明らかに！

議会答弁により、諸課題に対する新市長の考え方が明らかになりました。市長となり、様々な情報に触れる機会が多くなったことから、以前の主張や公約から大きく方向転換しています。

課題等	新市長(大沼あきほ氏)	
	当選前の主張や公約	当選後の議会答弁
財政	大変厳しい状況と認識。	→ 現在の財政運営は健全と認めるが、市民に伝わっていない。
鉄道高架事業	財政状況を疑問視。推進派は本事業が必要な理由の説明。情報公開しつつ、専門家により財政状況や事業効果を早期に再検証する。	→ 世界一の沼津のために資するものとの認識はあるが、情報公開しつつ、専門家により財政状況や事業効果を再検証する。検証の時期や期限は設けない。
貨物駅用地の買収	検討した上でやる。	→ 反対の意見を尊重しながらも用地交渉は行っていく。
(仮称)ららぽーと沼津	街を破壊するものとして、反対。	→ 世界一元気な沼津にするために効果的であり、推進していく。
ごみ処理場(新中間処理施設)	建設を延期したのは、財政に問題があるため。	→ 建設コスト高騰による延期は妥当。適切な建設時期を見極めていく。
防災・減災	避難タワーや避難路を設置。	→ 市が進める津波避難シミュレーションの結果(H30)が出てから考える。
大学誘致	情報系の大学を誘致。	→ 場所を含め具体的な考えなし。情報系に拘らず高校生の入りたい大学なら良い。簡単ではないと認識。高専や専門学校にも声掛けする。
市長給与	半減する。	→ 2年間は半減する。その後は自らの厳しい目で実績を振り返り、対応を決める。退職金の半減は、退任時に自ら判断する。

「アスルクラロ沼津応援フェスタ」の様子



色々な催しを楽しんでもらいました

「アスルクラロ沼津」の誕生。JFL参加から3年。念願のJリーグ加入が決まりました。地域の活性化の起爆剤になり得る、との考えから、行政との繋ぎや地域への浸透、支援の獲得など、様々な取り組みをしてきました。今回の昇格は本当に嬉しく思います。

写真は来場された方々に楽しんでいただくための仲間と共に実施してきたイベントの様子です。Jリーグ参入初年度も、より多くの方々の参画を得ながら取り組みを進めていきたいと思っています。

アスルクラロ沼津  
県東初のJクラブ誕生

## 深田のぼるよりひとこと

多くの市民が変化を求めた結果の新市長誕生と受け止めています。より良い沼津にするため、多くの思いや力を結集させながら、気持ち新たに取り組んでいきます。

ご意見・ご要望がありましたら、後援会事務局までご連絡ください。

